

# 合同

No. 503

## 「喜ぼう、祈ろう、感謝しよう」

江戸川台教会牧師

田名邊 義之



**「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」**（テサロニケの信徒への手紙一5章16～18節）。

この御言葉は、クリスチャンの信仰の姿として最も親しまれている聖句の一つです。最近、合同教会の集会等の準備のときに、信徒の方々から「もっと証しを聞きたい」という言葉を耳にします。わたしたちの日常生活は予定で埋まっています。仕事、家事、育児、介護……。繰り返す目の前のことに追われる中で余裕を失っていて、心からの「喜び」や「感謝」を忘れてしまうので、神の御手が働き、恵みを聞いて励まされたいということでしょうか。では日々の生活の中で、どのように信仰の歩みをして、信仰を証しすることができるのでしょうか。

まず「いつも喜んでいなさい」とあります。ここで言われている喜びは、状況が良いから喜ぶという「一時的な感情」ではありません。もしそうなら、苦難の中にあるときに喜ぶことはできません。この「喜び」の根拠は、わたしたちの外側の状況ではなく、「主が共におられる」という事実にあります。喜びとは、単なる感情ではなく、どんなときも「主を見つめ続け」、「主と共に歩むこと」を選ぶ信仰の姿勢です。

次に「絶えず祈りなさい」とあります。これは、24時間ひざまずいて祈っていなさいという意味ではもちろんありません。お祈りは「神との対話、会話」であり「心の呼吸」と言います。嬉しいときには「ありがとうございます」と喜びと感謝を伝え、苦しいときには「助けてください」と叫ぶ。神に向けて言葉にならないため息だけをするということもあるでしょう。自分の心の動きをありのまま神

に報告し、相談する。神とのつながりを断たないことが、絶えず祈るということです。緊張しているとき、パニックを起こしているときにはまず深呼吸をして気持ちを落ち着けます。祈りはわたしたちが平安に過ごすための秘訣でもあります。水泳の息継ぎを教わったときに、まず息を十分吐くことを教えられました。呼吸を止めては生きていけないように、わたしたちの霊的な命も、お祈りという呼吸を通して神の恵みを吸い込むことで維持されるのです。

三つ目は「どんなことにも感謝しなさい」です。人生には、どうしても感謝できないような悲しい出来事や不条理な苦しみが起こります。しかし、わたしたちクリスチャンには、暗闇にいるようなときでも、「神はこの状況さえも益に変えてくださる。わたしと共にここにおられる」と信頼する信仰の歩みが与えられています。感謝は、「失ったもの」から「与えられている恵み」へと、わたしたちの視点を180度転換させてくれます。そして、この視点の転換から生まれる小さな喜びの発見が、わたしたちの生活を神の愛の「証し」へと変えていくのです。

そして、これら三つを支える重要な言葉が続きます。それは「**これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです**」という一文です。わたしたちは、自分の努力や根性で「喜び、祈り、感謝」しようとする、すぐに挫折してしまいます。しかし、これは「キリスト・イエスにおいて」とあるように、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」は「キリストと共にいるあなたなら、こういう生き方ができるんだよ」という神からの励ましであり、約束です。

- ・主が共におられるから大丈夫。「喜ぼう」。
- ・主が聞いてくださるから大丈夫。「祈ろう」。
- ・主が最善をなしてくださるから大丈夫。「感謝しよう」。

証しとは、自分の強さ、成功を誇るのではなく、自分の弱さ、失敗の中に働いてくださる「神の働き」を伝えることです。涙の中で見つけた「小さな喜び」、苦しさの中で絞り出した「一言の祈り」、そして当たり前だと思っていたことへの「感謝」。その一つひとつが、わたしにしか語れない尊い「証し」となります。この「喜び、祈り、感謝」の三つが、わたしたちから、また各教会から溢れ出していくことを願います。